

## ■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

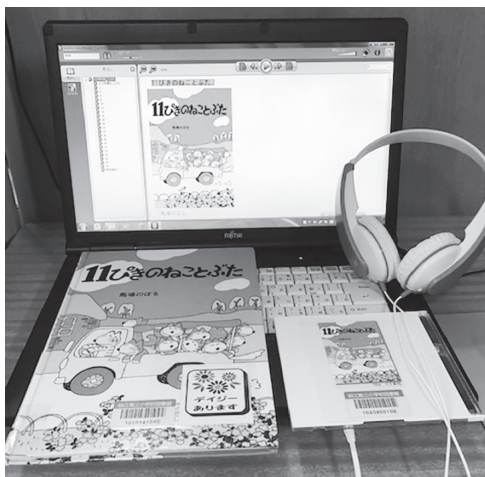
# 学校図書館で自分に合った読み方を見つけよう！

東京都狛江市立狛江第三小学校  
学校司書 青木和子

「文字に全く興味が無く、本を手を取らないので、本って楽しいものだと思ってほしくて…」「子どもが自分で、わいわい文庫を操作して読み、面白かったねと一緒に会話ができて良かったです。」

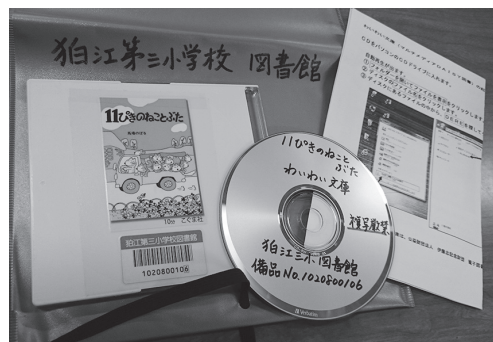
昨年の夏、読書相談に来られたお母さまの言葉です。

狛江市立狛江第三小学校では、2016年よりわいわい文庫を導入しました。本のタイトルごとにCD-ROMへ分割し、貸出用のバーコードを付けました。該当する書籍には、「デイジーあります」のマークが付いています。



## 学校図書館が保障する「読み」

小学校では、入学してすぐに文字の読み書き学習が始まります。読み書きのつまずきは、学年が進むにつれて学校生活のさまざまな場面で影響が見られます。学校図書館はすべての人の「読み」を保障する機関です。読みづらさによって情報アクセスから遠ざかる子どもが出ないように読みの支援を積極的に行う必要があります。利用者に図書館が開かれた場であることを伝え、図書館内でいろいろな読みを体験できることを目的として、学校図書館内にミニブースを設け、「わいわい文庫」のブルー版での視聴を可能にしました。また家庭に持ち帰って読めるように子どもや保護者に貸出を行っています。



## 教育相談員・特別支援教室から 広がる反響

「わいわい文庫」の導入は、狛江市内の学校図書館では初めての試みでした。特に反響があったのは、教育相談員や特別支援員の方々です。「わいわい文庫」の利用が可能になり、CD-ROMでの貸出を行っていることをお伝えすると、読みに悩みをもっている保護者の相談窓口として学校図書館を紹介してくださいようになりました。

読み書きのつまずきは、学年が進むにつれて問題が複雑になり、子どもの心理的負担も大きくなります。できれば低学年のうちに不安要素に気づき、どのような手立てが必要か支援方法を考えられるとよいでしょう。

そのために学校司書は、さまざまな場面で小さな声かけをするとともに、保護者と接点を持ち対話ができる環境を作るよう心がけています。ここ数年の取り組みで、特別支援教室や学級担任が、保護者に学校図書館での取り組みを伝えてくださるようになりました。読みの相談で学校図書館に行けば、何かヒントが貰える。保護者のみなさんはそのように考えて、図書館の扉を叩いてくださいます。

## 「わいわい文庫」の活用に向けて

2016年「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行は、合

理的配慮の提供の義務化と計画的・継続的な基礎的環境整備を求めています。本校でも同年6月に「わいわい文庫」を申請し、校内で設置できないか検討を始めました。「わいわい文庫」には「障害のある方以外に提供」を禁止する項目があり、校内で活用を進めるには個々の子どもが困難を抱えているかどうかの判断が必要になります。

そこで、学校図書館を運営している活用委員会の先生方に視聴してもらいながら、「わいわい文庫」の導入方法について検討会議を行いました。検討会議で導入までの流れを確認し、図書の時間（全クラス週1回）でマルチメディアDAISY図書について説明し、学校司書が子ども一人ひとりに聞き取り調査を行うことになりました。

2016年2学期に3年生を対象に実施し、結果を検討会議にあげ、3学期には2年生以上に実施しました。（5年生、6年生は全体説明のみ）

2017年以降は、毎年2年生の3学期の図書の時間に実施することが決まりました。「わいわい文庫」の視聴と読みに対する聞き取り調査は以下の通りです。

聞き取り調査の手順：①クラス全体に図書の時間の流れを説明する ②借りる本を選び席に着き、読書に集中する時間を設ける ③一人ずつ「わいわい文庫」のブースに来てもらい、他の

児童から離れた場所で聞き取りを行う。

聞き取る項目は、①本を読んでいる時に目が疲れる、ぼやけて見えにくい、チカチカするといったことはありますか？ ②音読は好きですか？ ③「わいわい文庫」を視聴します。「タイトル」の文が流れます。お話を聞く前に、どんな本か第1ページ目を音読してみてください。④操作を教えます。一人で使えるようになってください。⑤マルチメディアDAISY図書の特徴を伝えます。文字の大きさ・ハイライト・色替え・読むスピードを変えることができます。

この聞き取りは、検査ではありません。

学校司書が読みについて悩みがあるか本音を聞き、読むための手段はいろいろあることを知らせ、子どもたちの実態を知り、今後の支援に活かすのがねらいです。2年生の3学期は読みの個人差がはっきりする時期です。「わいわい文庫」の操作を覚え、このような機器が学校の中にあることを体感してもらいます。

聞き取り調査の問い①で「見えづらい」と答えた子どもには、カラーフィルターによる背景色の変更を紹介し、読みやすい色があれば、使うように渡

| 著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアDAISYなどの利用について<br>学校図書館が行う確認項目                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【目的】 柏江第三小学校図書館では、視覚著作物（活字印刷物等）をそのままの方式では読みに時間がかかる或いは読むことに困難を抱える児童に対して確認項目を定め、子どもの発達段階に応じた支援や適切な配慮を行う。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【学校図書館が行う確認項目】 以下の項目に該当する場合は、著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアDAISYなどの利用に応じる。                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>A. 申し立て</b>                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 必ず                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 児童（本人）                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| いずれか1つ                                                                                                 | <input type="checkbox"/> 保護者<br><input type="checkbox"/> 学級担任 <input type="checkbox"/> 特別支援教室、特別支援学級の教諭 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> 教育相談員<br><input type="checkbox"/> 学校図書館司書                                                                                               |
| <b>B. 状況のチェック項目</b>                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| いずれか1箇所以上                                                                                              | <input type="checkbox"/> 特別支援教室、特別支援学級に所属している                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                        | 心理的負担<br><input type="checkbox"/> 字を読むことを嫌がる／文字を書くことを嫌がる<br><input type="checkbox"/> 長い文章を読むと疲れる／文章を書くことを嫌がる                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                        | 読む／書くスピード<br><input type="checkbox"/> 文章の音読に時間がかかる／字を書くのに時間がかかる<br><input type="checkbox"/> 早く読めるが、理解していない／早く書けるが、雑である                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                        | 読む／書く様子<br><input type="checkbox"/> 逐次読みをする／書き順をよく間違える<br><input type="checkbox"/> 単語または文節の途中で区切ってしまう／漢字を使いたがらず仮名で書くことが多い<br><input type="checkbox"/> 文末を正確に読めない／句読点を書かない<br><input type="checkbox"/> 指で押さえながら読むと少し読みやすい／マス目や行に納められない<br><input type="checkbox"/> 見慣れた漢字は読めても抽象的な漢字を読めない／筆圧が強すぎる（弱すぎる） |
|                                                                                                        | 仮名の誤り<br><input type="checkbox"/> 促音、撥音、拗音などの特殊音節の誤りが多い<br><input type="checkbox"/> 耳で聞くと同じ音（オン）の表記に誤りが多い<br><input type="checkbox"/> 形態的に似ている仮名文字の誤りが多い                                                                                                                                               |
|                                                                                                        | 漢字の誤り<br><input type="checkbox"/> 読み方が複数ある漢字の誤りが多い／画数の多い漢字の誤りが多い<br><input type="checkbox"/> 意味的な錯誤がある<br><input type="checkbox"/> 形態的に類似した漢字の読み誤りが多い／形態的に類似した漢字の書き誤りが多い                                                                                                                               |

典拠 「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」  
国公立大学図書館・全国学校図書館協議会・全国公共図書館協議会・専門図書館協議会・日本図書館協会 2013年  
『特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン』稲垣真澄編 診断と治療社 2010年より改定  
出版社より 2019年3月転載許諾済み 2019年3月25日 司書・青木和子（起草）

します。カラーフィルターは緑・青・赤・黄色の4色です。このフィルターを高学年になっても使っている子どももあり、担任からも「使い続けていますね」とコメントがありました。

聞き取り調査を実施した後、読むことにつまずきを抱える子どもに対しては、著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアDAISY図書などの利用について、学校図書館が行う確認項目を作成し、「わいわい文庫」の貸出を可能にしています。当初「わいわい文庫」が利用できるWindows P Cは1台のみで、複数の子どもに対応ができなかったのですが、伊藤忠記念財団より2019年にiPad 1台の貸与を受けて活用場面が広がるようになりました。

## 校内の協力体制

読み書きの不安は、学校生活の中で子どもの何気ないしぐさに現れることがありますし、推察がむずかしい時もあります。図書の時間で子どもの様子に変化があった場合は、教育相談員・特別支援教室の教諭・学級担任に伝え、意見交換をします。手立てを考える際には、司書教諭・校内委員会・教育委員会指導室（図書館や特別支援の担当者）に相談します。子どもの様子を慎重に捉えるよう、学校司書だけで判断せず、必ず多方面からのアドバイスを得ます。

本校の情緒固定あおば学級・特別支援ひまわり教室からは、マルチメディアDAISY図書以外のさまざまな読み書きに関する支援方法を教えていただいています。

## これからの活動

読みづらさは、学習内容が定着しない要因でもあります。音声で理解が進むのであれば、代替手段をすすめることも必要です。これからの学校図書館には、文字を音に変える機器や代読サービス・サインの工夫・LLブックなどの読みやすい本や多様な資料を用意する・公共図書館からDAISY図書を借りるしくみを整えるなど、検討すべき事柄が数多くあります。環境面での整備を進めつつ、専門分野の先生方の知恵をお借りしながら、利用者の声に耳を傾け、これからも学校図書館の取り組みを考えていきたいと思います。

結びになりましたが、このようなすばらしいマルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」を提供くださいました伊藤忠記念財団のみなさまへ御礼を申し上げますとともに、これからもより一層、学校図書館へのご支援をいただければと思います。